

ホワイトスペース推進会議（第1回会合）議事要旨

1 日時

平成22年9月10日（金） 10時30分～12時00分

2 場所

三田共用会議所 1階講堂

3 出席者（敬称略）

（メンバー：50音順、敬称略）

伊東晋、木村太郎、後藤幹雄、土居範久、東倉洋一、所眞理雄、中村伊知哉、藤原洋、三友仁志、村上輝康、森川博之

（特別参加（「ホワイトスペース特区」先行モデル））

（株）湘南ベルマーレ、（株）TBSテレビ、（株）トマデジ、日本空港ビルディング（株）、（株）デジタルメディアプロ、兵庫地域メディア実験協議会、宮城県栗原市、YRP研究開発推進協会、（社）日本ケーブルテレビ連盟、日本放送協会

（総務省）

内藤総務副大臣、桜井総合通信基盤局長、久保田総括審議官、吉田電波部長、稲田審議官、前川総合通信基盤局総務課長、渡辺電波政策課長

（事務局）

電波政策課

4 配布資料

資料 1-1	ホワイトスペース推進会議の設立について
別紙	ホワイトスペース推進会議出席者一覧
資料 1-2-1	（株）湘南ベルマーレ
資料 1-2-2	（株）TBSテレビ
資料 1-2-3	（株）トマデジ
資料 1-2-4	日本空港ビルディング（株）
資料 1-2-5	（株）デジタルメディアプロ
資料 1-2-6	兵庫地域メディア実験協議会
資料 1-2-7	宮城県栗原市
資料 1-2-8	YRP研究開発推進協会
資料 1-2-9	（社）日本ケーブルテレビ連盟
資料 1-2-10	日本放送協会
参考資料 1	「ホワイトスペース特区」に関する提案の募集
参考資料 2	平成23年度総務省所管予算概算要求（ホワイトスペース関連）

5 議事概要

(1) 開会

(2) 総務副大臣挨拶

- 内藤総務副大臣から開会挨拶が行われた。また、資料 1-1 に基づき、本推進会議の趣旨について説明が行われ、会長に中央大学教授 土居範久氏が指名された。併せて、「ホワイトスペース特区」の公募開始について発表が行われた。

(3) 会長挨拶

- 土居会長から挨拶が行われ、会長代理として（株）野村総合研究所 村上輝康氏が指名された。
- 本推進会議の公開について土居会長から説明があり、了承された。

(4) 「ホワイトスペース特区」先行モデルについて

- 「ホワイトスペース特区」先行モデル（10 者）から「ホワイトスペース特区」での実施概要、実施計画、今後の展望等についてプレゼンテーションが行われた。

(5) 意見交換

- 今後のホワイトスペースの展開に向けて意見交換が行われた。主な発言は以下のとおり。

（構成員）

- ・ 「新たな電波の活用ビジョンに関する検討チーム」の一環として開催した国際シンポジウムを通して、アメリカとヨーロッパでは、ホワイトスペースは通信としての利用が期待されている一方で、日本では、放送と通信の融合という新しいアプローチが期待されていることが分かった。
- ・ このような意味で、「ホワイトスペース特区」先行モデルの取組は、世界でも先進的なものなので、該当地域だけでなく、全国展開を目指してもらいたい。さらに、特にアジアへの展開を含めたグローバルな展開を考えて頂きたい。

（構成員）

- ・ 全国津々浦々にホワイトスペースを活用して地域振興につなげていくというムーブメントを広げて欲しい。
- ・ 限られたエリアにおいては広告を集めることが難しく、行き詰まるケースが多い。先行モデルの方々には、具体的なビジネスモデルが確立できるよう頑張ってもらいたい。
- ・ 日本ケーブルテレビ連盟のような連盟の方には、日本全国のメンバーとノウハウの共有やコンテンツの交換等を行い、積極的な参加を促して欲しい。同様に、湘南ベルマーレには、J1 や J2 のクラブチームと一緒に取り組むよう働きかけて欲しい。

(日本ケーブルテレビ連盟)

- ・ 既に複数のケーブルテレビ会社から、「一緒にやりたい」という要望を受けており、コンテンツを中央管理して全国配信するというような全国展開も視野に入れている。
- ・ 地域ワンセグだけでなく、既存のネットワークである地域 WiMAX 等を利用して、地域力が向上するような取組をやりたいと考えている。

(湘南ベルマーレ)

- ・ Jリーグのチームに対して先行事例を示したいと考えている。
- ・ エリアワンセグを活用してスタジアム内に各店舗の広告配信を行うことを計画しており、これを売り上げにつなげ、広告モデルを確立していきたい。

(構成員)

- ・ 各課題の解決に向け、ユーザーを含めた参加者へのフィードバックを行うことやホワイトスペース活用の効果を定量的に示すことを願う。

(内藤総務副大臣)

- ・ 既に特区において実証実験を実施した TBS、宮城県栗原市の経験を聞かせて欲しい。

(TBS)

- ・ エリアワンセグを見る際は、その地域で放送用に割当てのないチャンネルを探すためチューニングを行う必要がある。チューニングが難しいことをあらかじめ把握していたため、フェリカーリダーを用いたやり方を採用したが、携帯端末によっては仕様が異なるため、チューニングできないものがあった。今後、端末の仕様を統一することなどが必要ではないか。

(宮城県栗原市)

- ・ 9月1日に宮城県の総合防災訓練があり、7,000人が参加した。このイベントは、宮城県の各種マスコミでもかなり取り上げられたので、ホワイトスペースの活用に関するエリアワンセグ自体の周知に役立ったと思う。

(構成員)

- ・ 先行モデルの方々は、情報のサプライヤーであり、ディマンドサイドの反応が得にくい。コミュニティ FM が成功したのはディマンドサイドから始まった取組だったからである。ディマンドサイドの声を吸い上げて、その声を反映できるような形へメディアを変えていってほしい。

(構成員)

- ・ ディマンドサイドの声を反映しやすくするには、いかに若い人達を巻き込んでいくかが肝要。学生などが広く自由に参加できるような場を用意することも一案。

(構成員)

- ・ 世界に先駆けた取組をされている皆さんには、エールを送りたい。いかに地域と一体となったコンテンツを配信できるかが成功の鍵だと考える。
- ・ 今後の課題や政府への要望などがあれば教えてほしい。

(宮城県栗原市)

- ・ 今回、ホワイトスペース特区での実験に当たって、実験試験局免許を許可されたところだが、申請に当たって必要となる技術的事項については、市役所の職員では対応できないため、慶応大学に協力をお願いした。今後、柔軟な対応が可能となるよう、検討してもらいたい。

(内藤総務副大臣)

- ・ 研究開発など結果を皆で共有できるものに対する財政的な支援というものはいいと思うが、ビジネス展開は民間サイドの自律的な努力で行うものと考えているため、ビジネスの確立を目的とするものに対する財政的支援には極めて慎重に対応したいと考えている。

(宮城県栗原市)

- ・ 山間部などには電波が届きにくい情報過疎地域が存在する。こういった場所には、ホワイトスペースを活用したサービスが FM 放送に匹敵するメディアになると期待でき、若者も興味を持ちやすいと考える。サービスの提供は、ゆくゆくは、青年会議所等に任せることを想定している。

(トマデジ)

- ・ 当社の提案は、交通機関において観光情報の配信を行うものであり、観光施策の中で総務省もリーダーシップを発揮してもらいたい。また、国際展開を本当に狙うのであれば、それなりの体制をつくり、取り組む必要があるのではないか。

(土居会長)

- ・ 国際展開に向けた検討や取組について、本推進会議で実施するのか、別の会議等で行うのか、状況を踏まえて検討していきたい。

(6) その他

- 参考資料 1 に基づき、「ホワイトスペース特区」に関する提案の募集について事務局より説明があった。

6 今後のスケジュール

- 次回の会合では提案の募集を踏まえ、選定を行う予定。

以 上